



2年生の就職内定状況

就職内定率 **94.1%** (R4.11月現在)

今年度も多くの学生が早期に就職内定を獲得し、生産技術科は就職内定率100%を達成しました。電子情報技術科も今年度末には高い就職率が見込まれます。2年生は就職先企業で即戦力として活躍するため、より一層技能・技術の習得に励んでいます。

生産技術科

(株)PFU	4名
シヤパパッケージングシステム(株)	3名
(株)石野製作所	2名
石川サンケン(株)	1名
岩本工業(株)	1名
能登テック(株)	1名
発紘電機(株)	1名
北調工業(株)	1名
UHT(株)	1名

電子情報技術科

鹿島興亜電工(株)	3名
アイナックス稲本(株)	1名
(株)穴水村田製作所	1名
(株)アルパイン設計事務所	1名
石川サンケン(株)	1名
共和電機工業(株)	1名
サンテック(株)	1名
(株)シー・アイ・ティ	1名
澁谷工業(株)	1名
図研テック(株)	1名
(株)ソキボシP&P	1名
(株)東振精機	1名
(株)白山	1名
発紘電機(株)	1名
ホシザキ北信越(株)	1名

内定者インタビュー

～ものづくり企業への就職に強い理由がある～

なぜその企業を選んだのですか
PFUが製作している組み込みコンピュータやKIOSK端末などに興味があり、この企業でメカの設計をしたいと思ったので志望しました。



生産技術科 2年
白藤 翔君 (穴水高校出身)
株式会社PFU 内定

就職活動について
先生に繰り返し面接練習を行っていただいたおかげで、本番の面接では自信を持って話すことができました。また、早い時期から面接や履歴書の書き方などの就職対策講座があり、役立ちました。

企業でどのように活躍していきたいですか

現在取り組んでいる総合制作(低燃費自動車の製作)で、設計段階で強度計算が甘かったところや、設計のせいで加工がスムーズにできなかった

ところがありました。そういった経験や失敗を生かして、加工や組立の手順や方法まで考えて設計の仕事ができるようになります。

なぜその企業を選んだのですか
学校で学んだシーケンス制御に興味を持ち、就職先について担任の先生に相談したところアルパイン設計事務所を勧められました。会社見学で訪問した際、会社の雰囲気が高く、電気設計の分野でシーケンス制御などの自分のやりたい仕事ができると思い志望しました。



電子情報技術科 2年
西谷 駿平君 (輪島高校出身)
株式会社アルパイン設計事務所 内定

就職活動について
1年生の時に就職対策講座で、面接時の話し方や礼儀作法、マナーを身につけられたため、実際の面接に生かすことができよかったです。

企業でどのように活躍していきたいですか

就職したら、まずは電気設備設計やCADを使った機械設

計を勉強して、入社して5年後くらいには自分に仕事を任せられるよう成長したいと考えています。

生産技術科

Hondaエコマイレージチャレンジで過去最高の5位!

生産技術科2年生6名のチームは、10月2日(日)に栃木県にある本田技研工業のレース場(ツインリンクもてぎ)で開催された「Hondaエコマイレージチャレンジ2022全国大会」に出場しました。本大会は各チームが製作した低燃費自動車をレース場で走行させ、燃費性能の良さを競う大会です。新型コロナウイルス感染拡大の影響のため3年ぶりの開催となりました。当校は4回目の出場で、今年のチームは先輩から受け継いだ車両と自分たちで新規に製作した車両の2台で挑みました。

前大会の優勝記録が1,764km/Lだったため、今年の目標は優勝するために想定した2,000km/L(穴水町から台湾の台北までの距離に相当)に設定しました。この非常に困難な目標を達成するため、学生たちは4月から放課後、夜遅くまでチーム



大泉 楓汰(門前高校出身)、八木 一真(飯田高校出身)、中村 亮太(金沢北陵高校出身)、岩本 郷哉(鹿西高校出身)、白藤 翔(穴水高校出身)、大角 聡平(輪島高校出身)

丸となって製作・改良に取り組みました。新規車両は、車体を木材で作成し、その上からカーボン張り付け強化することで軽量化を図り、また、エンジンと車輪の間にクラッチを挟むことで摩擦抵抗を軽減させる等、学生たちの創意工夫が車両のいたる所に盛り込まれています。

大会当日、受け継いだ車両はエンジントラブルのため未出走となりましたが、新規車両は無事完走し、燃費は934km/Lで47チーム中過去最高の5位という成績を取ることが出来ました。また、前大会から最も記録が伸びたチームに贈られる「ステップアップ賞」を受賞し、エンジンや車体等あらゆる部分で技術力を高めたことを評価され、エンジニアの卵として最高の栄誉をいただきました。

エコカーの製作を通じ、学生たちは様々な問題に立ち向かい、生産現場に必要な技能・技術や社会人として必要なヒューマンスキル等、多くの経験を積むことが出来ました。この経験を活かし、来春就職する地元優良企業や進学先で活躍することを期待しています。



大会風景

電子情報技術科

自律型ロボット競技会で優勝&3位!

9月3日(土)に栃木県で開催された自律型ロボット競技会「ARCo(Autonomous Robotics Competition)2022」のエキスパート部門(上級)とミドル部門(中級)へ、当校の学生3名ずつがチームを作り出場しました。ARCoとは、大学生や専門学校生を対象とした、ロボット本体の製作と動かすプログラム技術を競う全国大会で、今年は4校10チームが参加しました。

当校チームは、5月から始動し、競技コースの作成、競技ルールに沿ったロボットの設計・製作、プログラムの作成を行ない、より確実にそして速く動作できるように試行錯誤を繰り返しました。夏休み中も自主的に登校して、メンバー内で相談しながらロボットの改良やプログラムの調整を行い、問題をひとつずつ解決してい

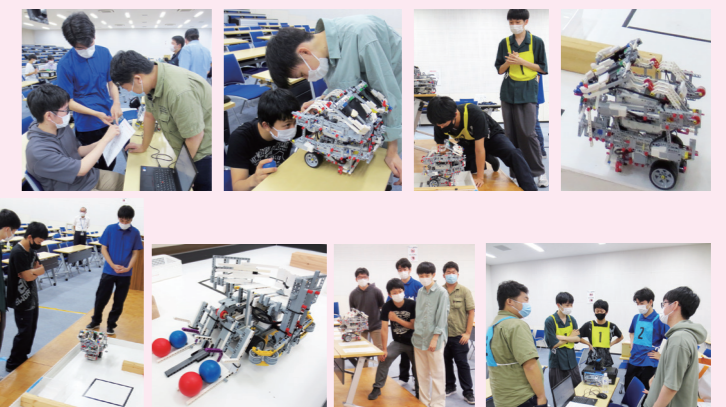


3位 ミドル部門(後列) 輪島 幸太(能登高校出身)、堀谷 樹矢(志賀高校出身)、磯部 蒼汰(能登高校出身)
優勝 エキスパート部門(前列) 田島 駿矢(穴水高校出身)、権野 陽也(金沢北陵高校出身)、原 拓巳(鹿西高校出身)

きました。その結果、エキスパート部門は見事「優勝」、ミドル部門は「3位」の成績を収めました。また大会では、他大学の学生と技術や攻略手法などの情報を積極的に交換し、お互いに知識を高めました。

この大会を通じて、学生達は、グループ開発に必要な「チームワーク」や「コミュニケーション能力」、大会に間に合わせるための「スケジュール能力」、予想外のトラブルが発生した時の「トラブル対応力」などが身に付きました。将来、社会人として活躍することが今から楽しみです。

また、学校へ戻るとすぐに大会の反省とロボットのグレードアップについて議論を始め、更なる開発を進めています。最終的な成果を来年1月28日に行われる「ポリテクビジョンin穴水」で発表する予定です。ぜひご来場いただき、学生達の頑張りをご覧ください。



競技会風景